

# Pichari ~ピチャリ~

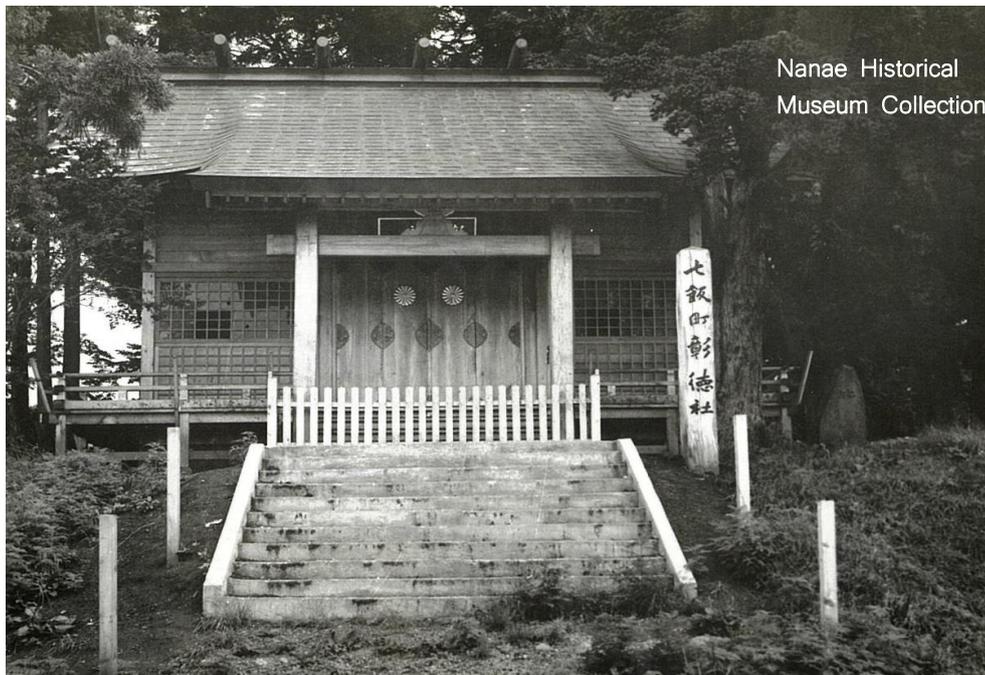
七飯町歴史館だより

第203号

## ななえ古写真物語 VOL.203

### 英霊の眠る場所

彰徳社の記憶  
昭和50年ころか  
本町地区



Nanae Historical  
Museum Collection

町から消えつつある記憶が増えてきた。建物が失われたり、無駄に木々が伐採されたりするなど、これまで存在していたものが、突如として無くなると、はじめは喪失感に覆われるのだが、不思議なものでその状況に慣れてくると、過去の景色が無かったものとされる位に、失われた姿が日常の景色となってしまふ。それは、とても寂しいことだと思う人間自体が、マイノリティな社会になったように思う。それほどまでに、現代における開発行為は、効率と迅速さを求め、人の感情から切り離された形で推し進められるようになったと感じる。

上に紹介した「彰徳社」も、そんな失われつつある記憶の一つかもしれない。かつて七重小学校のグラウンドに隣接して建てられていたこの社は、日清戦争から太平洋戦争までの戦争犠牲者、四百六十一名の御霊が祀られていた。神明造りと思われる社の中には、戦没者たちの遺品が納められ、毎年8月15日に慰霊祭が執り行われた。それ以外の日は、扉が堅く閉ざされていたので、大概の人は遺品の存在を知らなかっただろう。また、建物の傍らには、大正8年に建立した忠魂碑と平成3年に建立された平和記念碑があり、これらは、今も同じ場所に残っているので、かつて彰徳社があったことを記憶している人もいるだろうが、若い世代は、存在すら知らないだろう。

『七飯町史』には、彰徳社本殿が昭和43年に完成したと記されているだけで、建立の経緯は不明である。ただ、毎年慰霊祭は開催されていたという。奇しくも、終戦60年の節目となる平成17年（2005年）春に、中核的な役割を担っていた「七飯町彰徳社奉賛会」が解散することになり、同年8月の慰霊祭からは、七飯町の主催のみで行われるようになった。終戦から月日が経ち、関連団体の高齢化も著しかったのだろうと想像する。そして遺品類は、遺族会の希望もあり当館へ一括寄贈された。詳しい年月日は調べていないが、その後さほど経たないうちに、彰徳社の建物は取り壊され、現在のような更地になったと記憶している。英霊の眠る場所が失われたともいえるだろう。

余談だが、当館へ寄贈された遺品は、資料台帳のデジタル化を進めるにあたり、学芸業務担当の2人でクリーニング作業や番号付け、写真撮影を行っていた。ところが、なぜか誰もいないはずの収蔵庫で物音や人の気配が頻繁にできるようになった。私たちは、作業を中断することもできないので、ポケットにお守りと清めの塩を忍ばせ、作業を続けたのだが、あの時ほど収蔵庫が騒めいたことはない。眠っていた英霊を起こしてしまったのだと、今では笑い話に出来るのだが、円錐状に整えた盛り塩だけは、変わらず収蔵庫に置いている。

## 12日 古文書教室

北海道立文書館から講師をお招きし、初心者向けの講座を午前と午後の二部制で行いました。博物館と違って、ガラスケース越しに見る資料とは異なる、文書館の利用方法などを教えて頂き、古文書の基礎知識の説明になると、徐々に難しくなってきますが、古文書の特徴やルールを覚えていきます。さていよいよ解説。七飯に関する八王子千人同心の文書をとても丁寧に解説頂きました。何となく読める気がするという、面白さがわかってくる頃、午前の講座は終了。午後は当館学芸員の八王子千人同心の歴史講座で締めくくりました。



## 16日・24日 小学校の見学

鹿部小学校3年生と大沼岳陽学校の4年生が、来館しました。鹿部小は道具の移り変わりの解説。常設展示室の茅葺き民家では、壁板の工夫や礎石のおはなし、農具では、唐箕の仕組みや土器の用途についても対話形式で解説を行いました。黒電話や矢立てなどの所蔵資料も使い、見て、ふれて、感じる時間を学んでもらいました。大沼岳陽学校は、町の歴史を知る時間。七重官園の詳しい歴史、町指定文化財から見る、昔と今の七飯、最後は、七重小の周りを歩き、官園の石垣を見ました。



## 20日ジュニア探検クラブ

今月のプログラムは「収穫をたのしむ」。まずは館の周りに、秋に成る実を探しに行きました。野草園のマルメロ、カリン、カラタチの形や匂いや重さを観察し、歩道に落ちているクリは、中の実を出す方法がわからず戸惑う様子も。その後は、リングジャム作りです。「紅玉」と「祝(いわい)」の二種類のリングで作りました。皮ごと煮て作ったジャムは、透明感ある赤い色。楽しく七飯の食を感じる時間になりました。



## 12月の予定

1	日	企画展「描く」をくらしに
2	月	休館日
3	火	
4	水	
5	木	夜の博物館 第1夜
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	休館日
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	企画展最終日
16	月	休館日
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	ピチャリ第204号発行
21	土	ジュニア探検クラブ
22	日	
23	月	休館日
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	年末年始休館日
30	月	
31	火	

※休館日：2日、9日、16日、23日、29～31日

### おばあちゃんはどこにいます

おばあちゃんに会いに来たという子どもに「どこに行ったの？」と心配されることがあります。



### 編集後記 ～tawagoto～

「今見マセ イツ見ルモ」。これは民藝運動の提唱者でもある柳宗悦の言葉。見慣れたものでも今初めて見たような、新鮮な思いでモノを見よ、という意味らしい。開催中の企画展示は、暮らしの中にアートを取り入れるヒントを提案している。知っているつもりだったり、わかっているつもりが、実はそうではなかったや、こんな見方もありますよ、の柔らかな解説をしている。情報過多の時代、時には見る角度を広げ、展示を楽しんで頂けたらと思う。

## Pichari ～ピチャリ～

第203号

令和6年11月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp